

公衆衛生看護活動展開論	2年・後期	2単位	准教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33330962

1. 授業のねらい・概要

対象者の発達段階や健康障害の特徴に応じた保健福祉活動とはどのようなものなのかを理解し、具体的に母子・成人・高齢者・精神障害者・難病・感染等に対する活動の基本および保健指導について学ぶ。また、対象者が主体的に問題解決できるための支援・介入の基礎を学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 地域に生活する対象者の発達段階・健康問題の特徴を理解する。
2. 発達段階・健康障害・健康課題に対する保健福祉活動を理解する。
3. 保健師に求められる保健指導・相談・支援・介入技術を学ぶ。

3. 授業の進め方

自己学習をしやすいように、基本的にテキストに沿って授業を進める。対象別の発達段階、発達課題、特性と社会状況を理解、地域における保健活動および保健事業について学びを深められるよう、地域保健福祉に関連するトピックスなどもとりあげ、時代と社会背景に即した保健活動についても考察できるようにする。

4. 授業計画（演習）

1. 母子保健活動論①（わが国の母子保健） （島田昇）	8. 地域精神保健活動論① （地域精神保健福祉活動の実際）（島田）
2. 母子保健活動論②母子健診 （乳幼児の成長・発達と保健指導）演習（島田）	9. 地域精神保健活動論② （事例の展開）（島田）
3. 成人保健活動論①（成人保健の動向） （島田）	10. 障害者（児）保健活動論（島田）
4. 成人保健活動論②（成人保健と保健指導） 演習（島田）	11. 難病保健活動論（島田）
6. 高齢者保健活動論①（介護保険制度）（島田）	12. 感染症保健活動論（島田）
7. 高齢者保健活動展開論②（高齢者と保健指導） （島田）	13. 災害時保健活動論（島田）
	14. 口腔保健活動論・健康教育（島田）
	15. 健康教育指導案の作成（島田）

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）90％、課題レポート10％で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：荒賀直子，後閑容子（2020）公衆衛生看護学 第4版 データ更新版．インターメディカ
参考文献：中央法規 公衆衛生看護学 ，日本看護協会出版会 公衆衛生看護学

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲内について、テキスト内容の熟読し、予習（60分）程度を行うこと。
受講後は講義内容をノートにまとめる復習（60分）を実施すること。

8. 受講上の留意事項

テキストの指定された範囲は事前に読んでから授業に臨むこと。地域に生活する人々への援助には、社会的な問題意識が必要です。日常的に新聞を読み、ニュースに触れる機会を多くもつよう努力すること。また、図書館を積極的に利用し文献や専門雑誌に目を通す習慣をつけること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答などを説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

保健師教育課程必修科目であり、修得できない場合保健師国家試験受験資格が不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

行政委託機関および、医療機関での保健師としての勤務経験を活かして、講義・演習の指導を行う。